

## 新時代に必要な英語のスキルを整理しよう！

中山 晃（愛媛大学 教育・学生支援機構英語教育センター 教授）

### 講師略歴

専門は英語教育。1996年8月、兵庫県内の公立高校に臨時講師として赴任、英語教師のキャリアをスタートさせる。2003年に足利工業大学（現 足利大学）共通課程講師、同准教授を経て、2009年から愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター准教授。2022年に同教授となり現在に至る。この間、主に初年次英語教育プログラムの企画・開発に携わる。さらに、事前・事後指導を含めた「愛媛大学 SEA プログラム」という海外短期研修、海外留学の仕組みを整え、学生の海外での学びをサポートしている。

### プログラム概要

コロナ禍を経たことで、情報・コミュニケーション技術（ICT）が格段に進歩しました。英語教育にかかわる技術としては、AI を活用した文章生成や翻訳です。例えば、和文英訳や英文和訳などにおいては、数年前とは比較にならないほど、インターネット上の Web ツールの精度が上がっており、またそのスピードもとても早いため、特に「読み」、「書き」といった英語のリテラシーにかかわる能力の指導においては、その内容や教授法のアップデートが喫緊の課題となっています。

今後は、より一層、これらの技術は進歩することが予想され、人、すなわち「教員が英語を教える」という教育モデルを再考しなければならない時代がやってくると考えられます。この新しい時代において、わたくしたちを含め、大学生が身につけなければならない「英語力」の再定義と、その学び方となる「どのように英語を学ぶか」という言語習得・学習プロセスを今一度考える機会が必要ではないでしょうか。

本プログラムでは、まさに新時代の、岐路に立つ我が国の英語教育において、今後、教職員及び学生が身につけるべき英語のスキルを参加者の皆さんと一緒に整理し、そのスキルを涵養するための授業案（簡易版シラバス）をデザインできたらと思います。講義形式での話題提供の後、その内容を踏まえて、グループ内でディスカッションを行ってもらい、最後に各グループからの発表を通して、アイデアの共有をしたいと思います。

### 準備物・事前課題

所属大学の共通教育（教養）の英語のシラバスや、公開可能な教職員に求められている語学力が示されている文書など

### 主な受講対象者

共通教育（英語）を担当する教員や「グローバル」や「国際」といったキーワードに関連する部局に所属する教職員

### 到達目標

1. 大学教職員や大学生に求められる「語学力」がどのようなものになるか、現在の知見をもとに説明することができる。
2. 大学教職員や大学生に求められる「語学力」を涵養するための授業案（簡易版シラバス）をデザインすることができる。